

## みずほマーケット・トピック(2023年3月17日)

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料  
3. 誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」は本日午後に別途配信いたします。

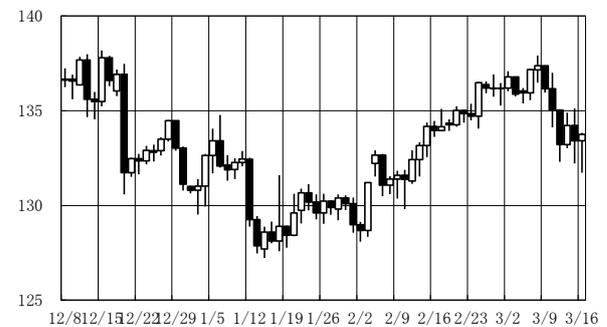
### 1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は、米地銀の破綻に端を発する信用不安が渦巻く中、リスクオフの円買いで下落した。週初13日、134.94円でオープンしたドル/円は、米金利低下を受け値幅を伴いつつ134円台前半へ下落。海外時間は132円台前半へ続落も、株式市場の切り返しを受け133円台を回復した。14日、ドル/円は悲観ムードが若干後退し、米金利上昇を受け133円台半ばに続伸。海外時間は、米2月消費物価指数(CPI)のコア指数が+0.5%(前月比)と市場予想を上回り、米金利上昇とともに135円を目指す展開となった。15日、ドル/円は材料難の中134円台前半でレンジ推移。海外時間は米金利上昇で一時的に高値となる135.10円に上昇も、欧州大手銀行に関する信用不安が取りざたされると、リスクオフから米金利は急低下、132円台前半に反落。引けにかけては、ドルの戻り買いを受け133円台半ばに値を戻した。16日、ドル/円はリスクオフの円買いが継続し、132円台後半に下落。海外時間は、米地銀が身売りを検討との報道を受け円買いが加速し一時1か月ぶりの安値となる131.72円に続落も、その後は複数の米大手銀行が支援に乗り出す旨が公表されると円は売り戻され、133円台後半に上昇した。本日のドル/円は、引き続き133円台半ばでの取引となっている。
- 今週のユーロ/ドルは、欧州大手銀行の信用不安を受け、欧州金利低下を背景に下落した。週初13日、1.0682でオープンしたユーロ/ドルは、米地銀破綻の余波が残る中関連報道で上下も、ドル/円下落が波及し1.07台半ばに上昇した。14日、ユーロ/ドルは材料に欠ける中、1.07台前半を主としたレンジ推移となった。15日、ユーロ/ドルは独金利上昇を受け一時的に高値となる1.0760に上昇も、欧州大手銀行に対する信用不安が市場を賑わし、独金利の急低下を背景に一時2か月半ぶりの安値となる1.0517まで急落した。16日、ユーロ/ドルは円買い・ドル売りが波及し1.06台前半へじり高推移。ただし、ECB政策理事会においては+50bpの利上げを決定も、利上げ見通しが示されなかったこともあり独金利は低下、1.05台半ばに急落。その後は独金利反転を受け1.06台を回復した。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.06台前半での取引となっている。

今週のおもな金融市場動向(出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		3/10(Fri)	3/13(Mon)	3/14(Tue)	3/15(Wed)	3/16(Thu)
ドル/円	東京9:00	136.39	134.94	133.07	134.41	132.91
	High	136.99	135.01	134.90	135.10	133.82
	Low	134.12	132.30	133.03	132.22	131.72
	NY 17:00	135.10	133.23	134.23	133.48	133.78
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0586	1.0682	1.0724	1.0726	1.0581
	High	1.0702	1.0748	1.0750	1.0760	1.0635
	Low	1.0574	1.0648	1.0679	1.0517	1.0552
	NY 17:00	1.0639	1.0732	1.0733	1.0579	1.0611
ユーロ/円	東京9:00	144.33	143.99	142.69	144.16	140.65
	High	145.07	144.40	144.40	144.93	142.00
	Low	143.42	141.42	142.55	139.49	139.15
	NY 17:00	143.76	142.97	144.03	141.11	142.00
日経平均株価	28,143.97	27,832.96	27,222.04	27,229.48	27,010.61	
TOPIX	2,031.58	2,000.99	1,947.54	1,960.12	1,937.10	
NYダウ工業株30種平均	31,909.64	31,819.14	32,155.40	31,874.57	32,246.55	
NASDAQ	11,138.89	11,188.84	11,428.15	11,434.05	11,717.28	
日本10年債	0.39%	0.30%	0.26%	0.32%	0.28%	
米国10年債	3.70%	3.54%	3.68%	3.46%	3.58%	
原油価格(WTI)	76.68	74.80	71.33	67.61	68.35	
金(NY)	1,867.20	1,916.50	1,910.90	1,931.30	1,923.00	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



## 2. 来週の注目材料

- 米国では、21日(火)～22日(水)にFOMCが開催される。2月会合では+25bp利上げを実施、2会合連続での利上げ幅縮小となった。声明文では、「将来的なターゲットレンジの引き上げペースを決定するあたり」であった部分が、「将来的なターゲットレンジの引き上げ程度を決定するあたり」に変更された。利上げ着地点を探るような文言修正だろう。加えて、インフレに関する記載に関しても「インフレは幾分和らいだが、高水準であり続けている」へ修正し、インフレ鈍化を追認。パウエルFRB議長は、「財ではデysinフレが始まった」と踏み込んだ表現をしたが、「住宅以外のコアサービスでデysinフレを確認する必要がある」と述べ、引き続きインフレを警戒する旨を強調。足許では、米地銀の破綻問題を受け、+50bp利上げの予想は後退、+25bp利上げの予想が優勢となっている。加えて、アップデートされるドットチャートやスタッフ経済見通しにも注目が集まる。年末の政策金利見通しに関し前回から切り上げられれば、6月会合以降での利上げ継続が意識されるとともに、年内利下げを見込まないメッセージとなる。
- 欧州では、24日(金)にユーロ圏3月製造業/サービス業PMI(速報)が公表予定。前回2月は、製造業が48.5と1月から低下し8か月連続の中立水準割れ、サービス業に関しては52.7と前月から上昇し、2か月連続の中立水準超えとなった。暖冬やエネルギー価格の下落、そして中国経済の回復期待等が相まってサービス業の景況感が大きく上向いた格好だ。ただし、景況感のさらなる改善はインフレ鈍化の遅れをもたらし、ECBのタカ派姿勢をさらに強化するリスクをはらんでいる点には注意が必要だ。なお、ブルームバーグの事前予想では、製造業は48.8、サービス業に関しては52.5と見込んでいる。

	本 邦	海 外
3月17日(金)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏2月消費者物価指数(確報)</li> <li>・ユーロ圏10～12月期労働コスト</li> <li>・米2月鉱工業生産</li> <li>・米3月ミシガン大学消費者マインド(速報)</li> </ul>
20日(月)	・日銀金融政策決定会合 主な意見(3月会合分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏1月貿易収支</li> <li>・独2月生産者物価指数</li> </ul>
21日(火)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・独3月ZEW景気期待指数</li> <li>・米2月中古住宅販売件数</li> <li>・米FOMC(22日まで)</li> </ul>
22日(水)	・2月工作機械受注(確報)	・ユーロ圏1月ECB経常収支
23日(木)	_____	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏3月消費者信頼感(速報)</li> <li>・米10～12月期経常収支(確報値)</li> <li>・米2月新築住宅販売件数</li> </ul>
24日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月消費者物価指数</li> <li>・3月製造業/サービス業PMI(速報値)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユーロ圏3月製造業/サービス業PMI(速報値)</li> <li>・米2月耐久財受注(速報値)</li> <li>・米3月製造業/サービス業PMI(速報値)</li> </ul>

### 【当面の主要行事日程(2023年3月～)】

FOMC(3月21～22日、5月2～3日、6月13～14日)

日銀金融政策決定会合(4月27～28日、6月15～16日、7月27～28日)

ECB政策理事会(5月4日、6月15日、7月27日)

市場営業部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)

[daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp](mailto:daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuhoibank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) [http://www.mizuhoibank.co.jp/forex/econ\\_backnumber.html](http://www.mizuhoibank.co.jp/forex/econ_backnumber.html)

発行年月日	過去6か月のタイトル
2023年3月16日	ECBは「世紀の失策」を繰り返すか～利上げの行方～
2023年3月15日	企業物価指数の現状と展望～残る円安の爪痕～
2023年3月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年2月分)
	先陣を切るECB～アフターSVBの金融政策動向～
2023年3月13日	SVB破綻、ドル/円相場見直しへの影響
2023年3月10日	週末版(1周年を迎えた米利上げ局面～やはり遠い円高シナリオ～)
2023年3月8日	1月国際収支統計を受けて～今後の注目点～
2023年3月7日	FRBより長引くECBの利上げ～ホルツマン発言について～
2023年3月6日	日本における「基調的なインフレ率」の現状と展望
2023年3月3日	週末版(賃金インフレへの懸念強まるユーロ圏～コアは加速、政策理事会の争点は賃金に～)
2023年2月28日	ECBのバランスシート政策について～状況整理～
2023年2月27日	植田総裁候補の所信聴取を受けて
2023年2月24日	週末版
2023年2月21日	利上げ減速のイメージが湧かないユーロ圏
2023年2月20日	現実味増すインフレ長期化～円安シナリオの再起動～
2023年2月17日	週末版(本邦1月貿易統計を受けて～史上最大、再び～)
2023年2月15日	本邦10～12月期GDP～3年経ってもコロナ前～
2023年2月14日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2023年1月分)
	日銀、植田新体制への所感～Q&A方式での整理～
2023年2月13日	日銀、植田新体制への所感～理想から現実へ～
2023年2月10日	週末版
2023年2月9日	ユーロ圏、インフレ期待の現状～pivotは支持されず～
2023年2月8日	2022年の国際収支統計を受けて～意外な伏兵～
2023年2月7日	日本はドイツに追い抜かれてしまうのか～何が違うのか～
2023年2月6日	IMF見直し昇修正と為替見通しの関係について
2023年2月3日	週末版(ECB政策理事会を終えて～顕著に改善するユーロ相場の取引環境～)
2023年2月2日	FOMCを終えて～ドル/円見直しに影響なし～
2023年1月30日	23年、最初の1か月を終えて～言うほど進まないドル安～
2023年1月27日	週末版(当面のECBの金融政策運営の考え方～「追い風」を得てタカ派に持続性～)
2023年1月25日	神風に救われたユーロ圏経済～最悪からの復活？～
2023年1月24日	「投機の円買い」vs「実需の円売り」の行方
2023年1月23日	日銀タカ派とFRBハト派の併存は可能なのか？
2023年1月20日	週末版(史上最大の貿易赤字をどう捉えるか～輸入増加の次は輸出減少に？～)
2023年1月19日	日銀政策決定会合を受けて～現状維持とも言い切れず～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年12月分)
2023年1月18日	懸念されるユーロ圏のインフレ～コアは加速中～
2023年1月16日	日銀は本当に動くのか？～当面の展開を整理～
2023年1月13日	週末版(依然残る日本の閉鎖性～入国規制とインバウンド需要～)
2023年1月10日	米12月雇用統計を受けて～無理筋なハト派解釈～
2023年1月8日	週末版
2023年1月5日	FOMC議事要旨を受けて～23年利下げへの支持はゼロ～
2023年1月4日	2023年展望の「重要な前提」と「バズ」のおさらい
2022年12月23日	週末版(史上最大の円安の年を終えて～円高を「押し目」とする視座～)
2022年12月21日	日銀の政策修正に関する論点整理～日銀Pivot～
2022年12月20日	米インフレ減速を当然視する風潮は大丈夫なのか
2022年12月19日	円安で注目したい対内直接投資のポテンシャル
2022年12月16日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「ターミナルレート3%」では不十分というメッセージ～)
2022年12月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年11月分)
	FOMCを終えて～PCEピークアウトと利上げ停止時期～
2022年12月14日	米11月CPIを受けて～円相場に対する見方は不変～
2022年12月13日	23年、ドル/円相場のメインシナリオとリスクの要約
2022年12月12日	インバウンド復活は2023年春以降のテーマに
2022年12月9日	週末版
2022年12月6日	ECB政策理事会プレビュー～2つの注目点～
2022年12月5日	「日本人の円売り」は一過性の懸念で終わるのか？
2022年12月2日	週末版(135円台で考える「安い日本」～名目円高では解決しない根深い問題～)
2022年12月1日	まだ警戒が必要なユーロ圏のインフレ情勢
2022年11月29日	ECB議事要旨を受けて～開き始めたFRBとの差～
2022年11月28日	FOMC議事要旨を受けて～利上げ幅縮小に新味なし～
2022年11月25日	週末版
2022年11月24日	投機ポジションで見るドル・円・ユーロの概況
2022年11月22日	消費増税以上の威力を示した40年ぶりのCPI
2022年11月21日	最高難度の局面に挑むECB～多様な「不況下」の物価高～
2022年11月18日	週末版(本邦7～9月期GDPを受けて～購買力の悪化は悲惨な状況～)
2022年11月17日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年10月分)
2022年11月16日	FRBは今、何を考えているか？～蘇る平均インフレ目標～
2022年11月15日	実質ベースで考えるドル/円相場のオーバーシュート
2022年11月14日	ユーロ相場の現状と展望～金利・需給面の整理～
2022年11月11日	週末版(2022年度上半期の経常収支状況を受けて～所得収支の還流が最後の手札～)
2022年11月10日	金利面から見たドル/円相場の現状と展望
2022年11月9日	ユーロ圏経済の近況について～スタグフレーションの淵～
2022年11月4日	週末版
2022年10月28日	週末版(ECB政策理事会を終えて～政策間の整合性が問われる状況に～)
2022年10月27日	ECB政策理事会プレビュー～再投資の行方～
2022年10月25日	製造業の国内回帰報道をどう理解するか？
2022年10月24日	圧倒的なファンダメンタルズ～円高は押し目という新常識～
2022年10月21日	週末版(半分になった円の価値～150円到達で何を思うか～)
2022年10月19日	天然ガス価格上限設定について～史上最も厳しい冬～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2022年9月分)
2022年10月18日	通貨高競争の足音～G20議長総括から何を讀むか～
2022年10月17日	トラス英政権の軌道修正～機能した市場のアラーム～
2022年10月14日	週末版
2022年10月13日	FOMC議事要旨を受けて～2023年も高金利～
2022年10月12日	「季調済み経常収支、2か月連続で赤字」の意味
2022年10月11日	年初来ピークに達したイタリアの対独スプレッド
2022年10月7日	週末版(国連の正論をどう受け止めるか～とはいえ利上げ停止は不可能～)
2022年10月6日	水際対策完全撤廃を前に論点整理
2022年10月4日	散見され始めたドル暴落説を検証する
2022年10月3日	「世界第2位の対外純債務国」の命運は政治次第
2022年9月30日	週末版
2022年9月27日	伊メローニ新政権、現実路線への修正は可能なのか？
2022年9月26日	英トラス新政権、「成長に賭ける」という危険な賭け
2022年9月22日	週末版(FOMCを終えて～「春になれば円安は止まる」の真実味～)